【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成19年6月28日(2007.6.28)

【公開番号】特開2005-329139(P2005-329139A)
【公開日】平成17年12月2日(2005.12.2)
【年通号数】公開・登録公報2005-047
【出願番号】特願2004-152042(P2004-152042)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３２０
Ａ６３Ｆ　7/02　３１５Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成19年5月11日(2007.5.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項２】
前記第１の乱数値はそれぞれ、大当たりの発生を遊技者に期待させる複数種類のリーチ演出のうちのいずれか、もしくは、はずれ演出に対応づけられ、
前記第２の乱数値はそれぞれ、大当たり、もしくは、はずれに対応づけられていることを特徴とする請求項１記載の遊技機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項４】
前記第１の進展手段により取り出された前記第１の乱数値がはずれ演出に該当する場合に、前記第２の進展手段の作動を禁止する作動禁止手段を備えることを特徴とする請求項２又は請求項３記載の遊技機。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
ここで、請求項２記載のように、第１の乱数値はそれぞれ、大当たりの発生を遊技者に期待させる複数種類のリーチ演出のうちのいずれか、もしくは、はずれ演出に対応づけられ、第２の乱数値はそれぞれ、大当たり、もしくは、はずれに対応づけられていると良い。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】

【００１３】
この場合、実時間から最も遠い過去に蓄積された第１の乱数に基づいて、リーチ演出のうちのいずれか、もしくは、はずれ演出へと遊技が進展したのち、外部操作が加えられた時点において実時間に最も近い過去に蓄積された第２の乱数に基づいて、大当たり、もしくは、はずれへと遊技が進展する。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
又、遊技機は、請求項４記載のように、第１の進展手段により取り出された第１の乱数値がはずれ演出に該当する場合に、第２の進展手段の作動を禁止する作動禁止手段を備えると良い。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】
この遊技機では、はずれ演出であるにも関わらず、遊技を不必要に進展させてしまうことを防止でき、ひいては、テンポの良い遊技を遊技者に提供することができる。
ところで、第２の記憶領域において、第２の乱数値の蓄積数が予め制限されている場合には、第２の乱数値の蓄積数が上限に達してしまっていると、遊技者が新たに遊技球を入賞させても無駄になってしまう。